

防災

安心安全な離島生活を送るには

私は今回、式根島防災のスタディツアーを体験した中で式根島の防災において「安心安全な離島生活を送る」ための取り組みや、改善すべき点を発見することができた。

特に感心した取り組みとしてまず、海拔が島のいたるところに明記されていることだ。スタディツアーを始める前の事前学習として、南海トラフが起こった時に式根島ではどのくらいの高さの津波が来るのかを調べた。その結果、最悪の場合14分で29mの津波が押し寄せることが分かった。以上のことから、式根島では地震時において津波が最大の問題であると考えられる。そのため、自身が起きたら自分が今海拔29m以上のところにいるのかを把握する必要があるため、島のいたるところに海拔が明記されていることは非常に良い取り組みだと感じた。

次に感心した取り組みとして避難経路が道路に明確に記載されていることだ。地震時には電波が遮断される可能性が高く特に観光客は島の道を把握していないために効率的に避難場所に行くことは困難だと考えられる。そのため、地図を持っていなくても道路に避難路が明記されていることにより避難場所に行くことができるのは非常に良い取り組みだと感じた。

以上の2点がスタディツアーを通して防災の観点から感心したことだが一方で、改善すべき点も発見した。一つ目に、与謝野明子記念碑周辺の避難路の道が非常に悪いということだ。与謝野晶子記念碑周辺は海拔10mほどの宿が数件ある。そのため、地震が起きた際は上記の避難路を使う必要がある。しかし、その避難路は雑草が至る所に生えており地震が起きて焦った観光客が通ることは非常に難しいと感じた。さらに、周辺には足付温泉があり、肌を露出した状態で避難する観光客もいる可能性があるため猶更危険であるだろう。

2つ目に改善すべき点として感じたことは空き家が待ちの至る所に放置されていることだ。これらの空き家はおそらく式根島の最盛期だった50年前の建物であろう。これらの建物は地震が起きたらすぐに倒壊する可能性が高く、さらに火事が起きる可能性も非常に高いだろう。さらに、空き家が放置されることは式根島の景観を著しく損なう可能性が高い。

このように、私は式根島防災スタディツアーを体験したことで、町がどのように防災に取り組み、どのような課題があるのかを明確に感じるすることができた。以上の観点を自分の住む町でもやってみたいと強く感じた。